

2021年5月21日

国土交通大臣 赤羽一嘉様  
国土交通省九州地方整備局長 村山一弥様

清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会 共同代表 岐部明廣  
緒方俊一郎  
7・4 球磨川流域豪雨被災者・賛同者の会 共同代表 鳥飼香代子  
市花保  
美しい球磨川を守る市民の会 代表 出水 晃  
子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会 代表 中島 康  
代表連絡先 熊本市西区島崎 4-5-13 中島康 電話 090-2505-3880

## 川辺川ダム緊急放流資料隠ぺいに関する抗議文

報道によると、昨年12月の球磨川流域治水協議会の説明資料から「川辺川にダムを建設後、今回の1.3倍以上の雨量があった場合は緊急放流に移行する」との資料が削除され、貴省は関係文書を破棄していたことが明らかになり、5月11日には一転して関係資料をホームページで記者発表しました。豪雨被災者や住民の関心が最も高い、ダム緊急放流に関する資料を隠ぺいし、態度を二転三転させた貴省への不信は大きくなるばかりであり、強く抗議するものです。

昨年7月4日の球磨川豪雨災害では、降雨量は甚大な被害を受けた中流域が最も多く、球磨川や川辺川の上流域は相対的に雨量が少なかったのが特徴です。にもかかわらず、球磨川上流にある市房ダムは、ほぼ満水状態になり、各報道機関は下流の住民に対し、市房ダムの緊急放流による水位の急激な上昇から命を守る行動をとるよう、くり返し呼び掛けていました。仮に川辺川ダムが存在し、今回の豪雨で球磨川中流域を襲った線状降水帯が上流域を襲った場合、2つのダムは満水となり、同時に緊急放流をしていたと考えられます。

本来、流域治水とは、流域のさまざまな関係者の力を集めて豪雨災害を防ぐ、という考え方です。しかし、球磨川流域治水協議会のメンバーは貴省など行政関係者ばかりであり、流域の住民は含まれていません。豪雨被災者や住民の意見も一切聞いていません。これまで私たち住民は、ダムの効果の算定根拠や、緊急放流などのダムの危険性について公開質問状等を提出してきましたが、貴省からの回答は一切ありませんでした。

昨年8月からの豪雨の検証や流域治水の協議が、もしも住民参加で進められてきていたならば、今回のような資料の隠ぺいも行われなかったはずですし、住民も貴省を信頼していたはずでした。

必要なことは、流域治水の受益者であるはずの住民と行政が一体となって、流域治水に取り組むことです。貴省はダム建設に不利な情報も隠さず、説明しなければ、地元はダムが必要かどうかを選びようがありません。貴省は、住民の命と財産を守るために何が必要なのか丁寧に説明し、流域治水対策について当事者である住民の合意を得るべきです。

これまで住民不在で「流域治水」協議を進めてきた貴省に強く抗議するとともに、流域治水協議会に地元住民も加えることを切に求めます。

以上